

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成30年4月12日(2018.4.12)

【公表番号】特表2017-505354(P2017-505354A)

【公表日】平成29年2月16日(2017.2.16)

【年通号数】公開・登録公報2017-007

【出願番号】特願2016-536197(P2016-536197)

【国際特許分類】

C 08 L	55/00	(2006.01)
C 08 K	5/01	(2006.01)
C 08 F	290/04	(2006.01)
C 09 J	133/00	(2006.01)
C 09 J	157/00	(2006.01)
C 09 J	11/06	(2006.01)
C 09 J	11/08	(2006.01)

【F I】

C 08 L	55/00
C 08 K	5/01
C 08 F	290/04
C 09 J	133/00
C 09 J	157/00
C 09 J	11/06
C 09 J	11/08

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年3月5日(2018.3.5)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

更に本発明は、前記多相ポリマー組成物を製造するための方法であって、次のステップ

、
- 重合可能なエチレン・ブチレンマクロマー、エチレン・プロピレンマクロマー、エチレン・ブチレン・プロピレンマクロマー及びイソブチレンマクロマーからなる群から選択される少なくとも一種のマクロマーの存在下にコモノマー混合物を重合して、アクリレート主鎖と炭化水素側鎖とを持つ櫛形コポリマー(A)を形成するステップ；ここで前記コモノマー混合物は、

・コモノマー混合物と少なくとも一種のマクロマーとの総重量をベースにして2～7重量%の少なくとも一種のコモノマーであって、アクリル酸、メタクリル酸、イタコン酸、無水イタコン酸、マレイン酸、無水マレイン酸、及びDSC法(測定法A2)に従い測定してホモポリマーの静的ガラス転移温度(Tg)が40超、特に80超の他のモノマーからなる群から選択される少なくとも一種のコモノマー；及び

・コモノマー混合物と少なくとも一種のマクロマーとの総重量をベースにして43～97重量%の少なくとも二つの(メタ)アクリレートコモノマーであって、DSC法(測定法A2)に従い測定してホモポリマーの静的ガラス転移温度(Tg)が40以下、特に25以下のモノマーからなる群から選択される少なくとも二つの(メタ)アクリレートコモノマー、好ましくはエステル基中にC1～C18アルキル基を持つ(メタ)アクリレ-

トコモノマー、好ましくはアクリル酸ブチル、アクリル酸アミル、アクリル酸 2 - エチルヘキシル、アクリル酸イソオクチル及びアクリル酸デシルから選択される少なくとも二つの(メタ)アクリレートコモノマー、

を含み；

- 30 ~ 64 重量部のこうして得られた樹形コポリマー(A)を、ポリマー組成物 100 重量部をベースにして 36 ~ 70 重量部の少なくとも二つの炭化水素化合物(B-1)及び(B-2)であって、樹形コポリマー(A)の炭化水素側鎖と相溶性の少なくとも二つの炭化水素化合物(B-1)及び(B-2)と混合するステップ、ここで(B-1)は少なくとも 70 の軟化点を有する炭化水素樹脂であり、そして(B-2)は最大で 20 の軟化点を有する炭化水素樹脂である；

- 場合によっては更に別の添加剤と混合するステップ；

- 並びに任意選択的に、反応性官能基を架橋するステップ；

を含む前記方法に関する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

好ましい実施形態の一つでは、本明細書に開示されるポリマー組成物は、樹型コポリマー(A)が、コモノマー混合物と少なくとも一種のマクロマーとの総重量をベースにして 50 ~ 99 重量 % のコモノマー混合物並びに 1 ~ 50 重量 % のマクロマー、好ましくは 75 ~ 95 重量 % のコモノマー混合物並びに 5 ~ 25 重量 % のマクロマー、特に好ましくは 85 ~ 90 重量 % のコモノマー混合物並びに 10 ~ 15 重量 % のマクロマーを含む混合物を重合することによって得ることを特徴とする。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0046

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0046】

該樹型コポリマーのアクリレート骨格及び炭化水素側鎖は、溶剤(存在する場合)の除去の後に、相分離した、好ましくはミクロ相分離した構造の形で存在し、この際、炭化水素相 K w 1 (これは、樹型コポリマー(A)の炭化水素側鎖と、この炭化水素相中に可溶性の炭化水素化合物(B-1)及び(B-2)から形成される)が、ポリマー組成物の連続アクリレート相中に不連続に存在する。これに関連して連続的とは、アクリレート相が、不連続炭化水素相の個々の断片(ドメインとも言う)をマトリックスのように包んでいることを意味する。ミクロ相分離した構造の存在は、ポリマー組成物の透明な外観の形態に現れる。このようなポリマー組成物では、炭化水素相のドメインは、可視光の波長(390 ~ 780 nm)より小さい大きさを有する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

【表1】

商業的に入手可能な使用した化学品

化合物	商品名	製造業者	CAS番号
1,3-ブタジエン、ホモポリマー、水素化 、ヒドロキシ末端、モノメタクリレート	L-1253	Kuraray 社	260057-97-4
2,2'-アゾビス(2-メチルブチロニトリル)	Vazo(登録商標)67	DuPont 社	13472-08-7
ビス(4-tert-ブチルシクロヘキシル)ペオキシジカーボネート	Perkadox(登録商標)16	Akzo Nobel 社	15520-11-3
炭化水素樹脂(C ₅ ベース、低芳香族類含有率、軟化点(環球式)94°C)	Piccotac(登録商標)1095-N	Eastman 社	-
炭化水素樹脂(水素化物、軟化点(環球式)88°C)	Reagalite(登録商標)R1090	Eastman 社	-
液状炭化水素樹脂(C ₅ ベース)	Wingtack(登録商標)10	Cray Valley 社	26813-14-9
テルペンフェノール樹脂(軟化点110°C; Mw=500~800g/モル; D=1.50)	Dertophene(登録商標)T110	DRT 樹脂	25359-84-6
アルミニウムアセチルアセトネート	-	Sigma-Aldrich 社	13963-57-0
N,N,N',N'-テトラキス(2,3-エポキシプロピル)m-キシレン-a,a'-ジアミン	Erisys TM GA-240	CVC Speciality Chemicals Inc. 社	63738-22-7

【誤訳訂正5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0071

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0071】

II 多相ポリマー組成物 P S A 1 ~ P S A 1 0 並びに比較例 V 1 1 ~ V 1 2 の製造

多相ポリマー組成物 P S A 1 ~ P S A 1 0 並びに V 1 1 ~ V 1 2 を、櫛型コポリマー P 1 ~ P 6 から製造した。ポリマー V P 7 は、ポリマー組成物 V 1 3 の製造のために使用した。このためには、上記で得られた櫛型コポリマー P S A 1 ~ P S A 1 0 もしくは V P 7 を、それぞれ 30% の固体物含有率にスピリットで希釈した。次いで、表 3 に記載の架橋剤(0.3 重量% のアルミニウムアセチルアセトネート(アルミニウムキレート)(A) または 0.075 重量% の E r i s y s G A 2 4 0 (B) のいずれか)、及び表 3 に記載の一種もしくは複数種の樹脂を溶液に加えた。次いで、36 μm 厚の P E T フィルム(Kemafoil HPH 100、Covema 社)上にコーティングし、次いで乾燥した(コーティング速度 2.5 m / 分、乾燥路 15 m、温度 ゾーン 1 : 40°、ゾーン 2 : 70°、ゾーン 3 : 95°、ゾーン 4 : 105°)。接着剤塗布量はそれぞれ 50 g / m² であった。